

結びのお茶会

登場人物

日向 夏希 (26) 会社員

橋本 翠 (52) 食堂のおばちゃん

及川 圭子 (78)

おばあちゃんたち

タクシー運転手 (65)

板井 宗 (45) 夏希の上司

梗概

カプセル式コーヒーマシンの営業担当・日向夏希は、なぜかカプセルの消費が増えた東北の被災地への出張を命じられる。夏希が見たのはかさ上げされた空き地、行政と住民の想いがすれ違った光景だった。災害公営住宅でマシンを囲み、団らんする老人たち。

「ひとりでは生きられんよ。みんな好きな人とお茶さ飲んで、お喋りしたいんだもの」
夏希は、復興とは土地や建物の再建ではなく、人と人の心をつなぎ直すことなのだとということを知る。

S E オフィス

宗 夏希、出張行って欲しいんだけど……
岩手。

夏希 え？ 岩手……ですか？

宗 ちょっと調べて欲しい事があってさ。

夏希 調べてほしいこと……？

夏希 (M) 私は東京で、カプセル式コーヒ
ーマシンの営業をしている。出張といえ
ば、大阪や名古屋、遠くても札幌や福岡
で、故郷の徳島はもちろん、東北は仙台に
一度いったくらいだ。ある時期から、岩手
県のある街で、カプセルの売り上げが伸び
ているという。しかも、コーヒーじゃな
く、抹茶の。上司の板井さん曰く、今後の
営業戦略のために調査してこいって、ただ
の偶然だと思っただけ……。

S E 三陸鉄道O駅 ホームの音

夏希 うっわあ、何も無い……。

夏希（M） 駅を降りると、想像と違う風景が広がっていた。真新しい駅舎の前に広がる、SF映画みたいなロータリー。湾を望む沿岸には、コンクリートの防潮堤が広がっている。

夏希 「大きな地震が来たら戻らず高台へ……」
「そっか、津波があったとこだ、ここ。」

タイトル 『結びのお茶会』

SE 車のドアの閉まる音

運転手 どごさ？

夏希 え？

運転手 どごさ、いぐんだ？

夏希 えっと……とりあえず、市内へむかつ

でもらってもいいですか？

運転手 市内……っていつでもなあ。

夏希 あ、えっと……じゃあ街の中心部にお
願いします。

運転手 中心部？ したっけ役場の方け？

S E 車の走行音

夏希 (M) すぐに、気がついた。湾から陸
にかけて広大な土地が盛土され、かさ上げ
されている。そうか……津波で全部流され
ちゃったんだ。

S E 車の止まる音

夏希 (M) そこは、中心部と呼ぶには、あ
まりにも殺風景な場所だった。真新しい建
物や住宅、コンビニが建っているけど、空
き地の方が多い。まるで手をつけはじめた
ばかりのジグソーパズルみたいだ……と思

った。

夏希 もうお昼か。とりあえず…。

SE 引き戸を開ける音

翠 おでんせ。

夏希 こんにちは…えっと。

翠 メニューはこれ。日替わりは、あんかけのイカ飯。

夏希 あ、じゃあそれをお願いします。

翠 はい。(厨房にむかって)日替わりひとつ！お姉さん、どこから？」

夏希 東京です。

翠 まあた遠いところから。な〜んもないでしょう？

夏希 いえ、私地元が徳島でして、海の近くだったので、懐かしいです。

翠 じえじえじえ！四国も魚美味しいよねえ。

夏希 あのだ……。

翠 ん？

夏希 失礼なこと聞いていたらすみません。

この辺って、まだ復興中ということなんで
しょうか。震災からもう十年以上経ってま
すけど。

翠 復興って言ってもねえ、はじめはみくんな
仮設住宅に避難してね。うちはここでま
たやり直そう……って戻ってきたんだけど
ね。賑わいは戻らないのねえ。

夏希 どうして、ですか？

翠 また津波が来た時のためにつて、盛土し
てかさ上げしてね。役所の人たちはみんな
戻ってくる……って思ってたんだけど、時
間がかかりすぎちゃったのよ。若い人は出
ていっちゃやし、またここで……って人は
少なくてねえ。だから、空き地ばかり。

夏希 皆さん、街を出ていってしまったんで
すか？

翠 ううん、年寄りみんな、あそこ。高台

の上におつきな建物見えるでしょう？ 災

害公営住宅。

夏希 災害公営住宅……あんな高いところに？

翠 復興っていうのはさ、住むところを何とかすれば元通り、ってわけにいかないのよ。

厨房からの声 はい、日替わり！

翠 おあげんしえ。

夏希 おいしい……！ このイカの中に入っているの、なんですか？

翠 炊き込みごはんにね、ウニ混ぜてんの。

夏希 こんなに美味しいイカ飯、はじめてで食べました。そっか、人が戻ってこないと復興にはならないということなんですね。

翠 難しいよね。やってみてわかったことだもん。けどお姉さんみたいに徳島から東京出た人がきてくれて、美味しいって言ってくれるだけで、またお店始めて良かった……って思うよ。お茶は？

夏希 あ……頂きます。そうだ、お茶！

翠 お茶？

夏希 はい、えっと……私コーヒーとかお茶を淹れる機械の会社につとめていまして。

翠 へえ！

夏希 この住所、どこかわかりますか？

翠 ああ、（間あって）あそこ、さっきの。

夏希 災害公営住宅……ですか？

夏希（M） 店を出て高台を登ると、団地のように大きな5階建ての建物が数棟そびえていた。広い駐車場には、車はほぼ停まっていない。公園の遊具にはシートがかぶせられていて、まるでゴーストタウンのようだった。

SE エレベーターの開く音

夏希 えっと……及川圭子さん、この部屋か。

SE どっと、お年寄りの笑い声。イン
ターホンの音。足音が近づいてき
て、ドアが開く

おばあさん はい？

夏希 あ……すみません。私こういう者で
して。

おばあさん (間あって) ちよっと、圭子さ
ん！ 東京からコーヒーのなんとかって。

圭子 東京？

夏希 突然ごめんなさい。私、コーヒーマシ
ンのメーカーの者でして、及川さんにお茶
のカプセルを沢山購入頂いているそうで。

圭子 あらやだ！ それで東京から？ みん
なわんさか飲むもんだもの！

おばあさん さ、おでんせおでんせ。

夏希 (M) リビングで、おばあさんたちが
十数名、テーブルを囲んで笑っていた。カ
ウンターには、コーヒーマシンと抹茶のカ

プセル。お菓子や作りかけの手芸品が並んでいる。

及川 津波で、みんなバラバラになっちゃったでしょう。仮設にいたときはまだお隣だったんだけど、ここ引越してきてからお茶飲む機会がめっきり減っちゃってね。喫茶店もないし……。したっけみんなでお金を出し合って。ただお茶淹れるよりも洒落てるでしょう。これが来てからはね、また皆で集まれるようになったんですよ。

SE カプセルが抽出される音

おばあさん まんつ、ねまってねまって。

夏希 (M) 気がついたら、おばあさんの輪の中で、一緒に笑っていた。半分くらい聞きとれない岩手弁はとてもあたたかくて、濃いめのお茶と一緒にいただく南部煎餅

は、噛みしめるほど甘かった。

及川　ひとりでは生きられんのよ。うち戻れなくてここ住んでも、離れてしまつてはね。私たちは好きな人とお茶さ飲んで、お喋りしたいんだもの」

おばあさんたち　んだんだ。

SE　笑い声が、電話の発信音に重なつてゆく

宗　（電話口の声）なるほど…：離れ離れになつていた人たちのお茶会の場で、活躍していたってわけか。

夏希　はい。もう終わっているんだとばかり思っていたけれど、復興って街が整備されて終わり…：ってことはなくて、そこに住んでいた人たちの心を、新たに結び直すことなんだ、って思いました。

宗 そうだな。行ってみたいとわからないもんだ。

夏希 板井さん。

宗 ん？

夏希 来月、お休み頂いてもいいですか？

宗 ああ、もちろん。どっかいくの？

夏希 徳島……実家に顔だそうと思って。

夏希 (M) 東日本大震災に投じられた復興予算は32兆円。近い将来起きると言われている南海トラフ地震では、復興5年間に162兆が必要となると言われている。でも、人の心は、お金や土地の整理だけでは戻らない。徳島の家族と友だちと、今から話してかなければならないことが沢山ある……と思った。

おわり

参考作品・文献

「NHKスペシャル 東日本大震災 めざした“復興”はいま…」震災7年 被災地からの問いかけ」

「新復興論 増補版」小松理虔・著